

## 宮城県不登校対策推進協議会からの提言

宮城県教育委員会

本県の不登校の状況については、平成24年度以降増加傾向が続き深刻な状況となっています。特に中学校においては、平成24年度以降在籍者比率（出現率）が全国的にも高い状況が継続しております。そのため、県教育委員会では、不登校の解消に向けて実効性のある施策を検討するための協議会を平成26年2月9日から3回にわたって開催しました。

この協議会においては、本県児童生徒の不登校の状況やその解消に向けた取組について、大学教授、精神科医、心理や福祉の専門家、市町村教育委員会や学校の関係者、PTA代表等による活発な議論が行われ、それぞれの専門的視点から貴重な意見が寄せられました。

子供たちが安心して学校生活を送り、互いに絆を深めていくためには、子供の声に耳を傾け、認めてくれる大人がいて、互いに高め合う友人がいることが重要です。そしてそのような認識を子供たちに関わる全ての人々が共有し、手を携えてそれぞれの役割を果たしていくことが必要だと考えます。

各学校の全ての先生方、市町村教育委員会、保護者・地域・関係機関等の皆さまに、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「不登校解消に向けた3つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

### 不登校解消に向けた3つの提言

#### 【保護者・地域・関係機関等の皆さまへ】

#### 1 学校を支援する体制整備を充実させること。

不登校解消に向けた取組を進めるとき、担任だけ、学校だけの対応には限界があります。保護者や地域、関係機関等においては、地域の子供を地域の大人が育てる「チーム学校」の体制を整備し、学校を支える体制整備を更に充実させていきましょう。

#### 【学校へ】

#### 2 「中1不登校を改善するための4つの視点」に係る実践を充実させること。

全ての学校においては、リーフレット「中1不登校の解消に向けて<sup>※1</sup>」を参考にしながら、「中1不登校を改善するための4つの視点<sup>※2</sup>」に基づいた実践を充実させていきましょう。

特に、「登校支援のための4つのシート<sup>※3</sup>」等を活用して累積した情報をもとに、全ての教員と関係者が認識を共有し、子供と保護者の思いや願いを受け止め、きめ細かな対応を心掛けていきましょう。

#### 【先生方へ】

#### 3 子供の声を聴き、ほめ・認める授業づくりと子供が互いに認め合う学級づくりに取り組むこと。

子供は自分が大切にされている、認められている等自分の存在感を実感できたとき、心の居場所を得ることができます。全ての教職員は、子供の話をじっくりと聴き、良いところを見つけてほめる授業を実践しましょう。また、自己選択や自己決定の機会と場を与え、一人一人の子供が学級や学年等の一員として認められ、自己実現を図ることができる、魅力ある学校づくりに取り組んでいきましょう。

※1、3 県教育委員会義務教育課のホームページからダウンロードすることができますので、御参照願います。

※2 裏面を参照願います。

## 「中1不登校を改善するための4つの視点」

- 1 小・中学校間の情報の申し送りや交流活動等小・中連携の取組の更なる充実を図る。
- 2 家庭や地域社会，関係機関との連携を積極的に進める。
- 3 不登校担当の教員を校務分掌上に明確に位置付けるとともに，情報共有の仕組みや組織的な支援体制を整備する。
- 4 児童生徒の変化を丁寧に見取り，的確にアセスメント（見立て）することによって，効果的な支援計画を立てる。